

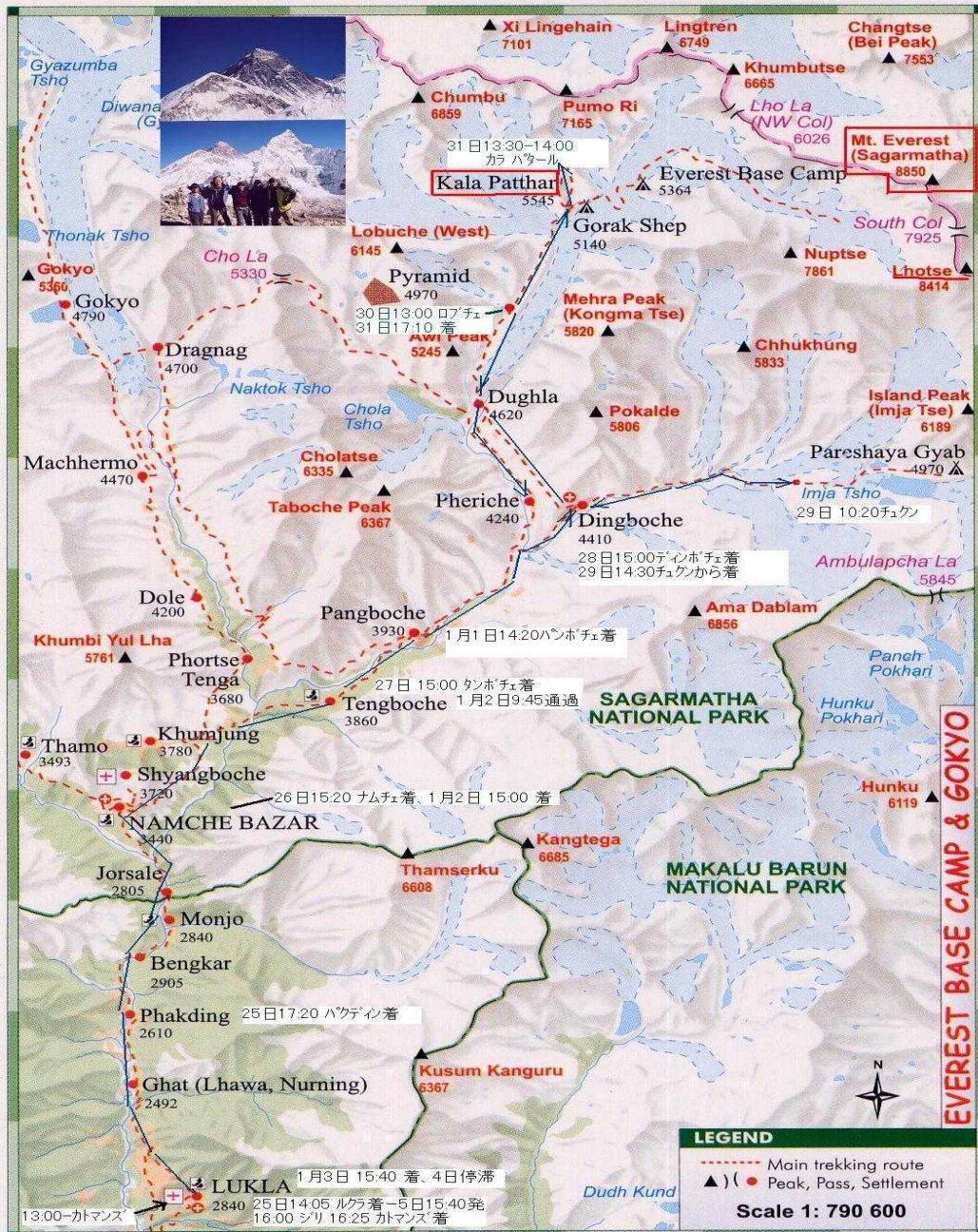
山行報告書

報告書作成

2007/1/14

山名 [山域]	ネパール、ソル・ケープ山域		目的と方法	エベレスト街道往復			
登山期間	06年12月24日～07年1月7日		山行形態	ガイド 案内ロッジ泊			
参加人数	OAC会員3 + 1名						
行動記録	地点	発	地点	着	地点	着	歩行時間
12月24日	関空	11:40	上海	14:20	カマンス	18:45	0
12月25日	カマンス	13:30	ルクラ	13:30 (14:00)	ハクティン	17:20	3:20
12月26日	ハクティン	8:00	ジヨルサレ	11:15 (12:15)	ナムフィハツ	15:20	6:20
12月27日	ナムフィハツ	8:00	ブンキテンガ	11:45 (12:45)	タンボチ	15:00	6:00
12月28日	タンボチ	8:00	シャレ	11:30 (12:45)	ティンボチ	15:00	5:45
12月29日	ティンボチ	9:00	チュクン	11:30 (12:50)	ティンボチ	14:30	4:10
12月30日	ティンボチ	8:00	トゥクラ	10:20	ロフチ	13:00	5:00
12月31日	ロフチ	8:00	ゴラクシブ	10:45	カラハタール	13:30 (14:00)	7:40
12月31日	ロフチ	17:10					
1月1日	ロフチ	8:00	ヘリチ	10:30 (12:00)	ハンボチ	14:20	4:50
1月2日	ハンボチ	8:00	ティンボチ	9:45 (10:00)	ブンキテンガ	11:05 (12:10)	6:00
1月2日	ナムフィハツ	15:00					
1月3日	ナムフィハツ	8:00	ハクティン	12:15 (13:20)	ルクラ	15:40	6:40
1月4日	ルクラ	停滞					
1月5日	ルクラ	15:40	シリ	16:00 (16:25)	カマンス	17:00	0
1月6日	カマンス	市内観光			カマンス	23:30	0
1月7日	上海	6:20 (7:30)	関空	1:30			

概念図



日誌

ネパールへの直行便は関空からしか出ていないため、初めての関空利用となる。直行便とはいえ、給油のため上海に立ち寄り2時間ほど機内で待機、時差は3時間15分で現地には夕方到着した。

空港へはガイドのKPさんが迎えにきてくれ、ホテルバイシャリへ、チェックイン後レストランで食事。

バイシャリは繁華街のタメル地区の中で便利であるが設備の保守が悪く(ネパール全体にいえる)ドアのノブが取れてしまう。

また温水が出ず今日はシャワーお預け、後でボイラーは22時で切れてしまうことが分かる、ネパールでは温水シャワーを使うことはかなり贅沢な行為である。

翌日ルクラに向けて飛ぶためカトマンズ空港に行くが霧が晴れず午前中は待ちぼうけ、そこでY姉妹と情報交換、やっと13時30分ころ離陸した。

ルクラまでの空路は定員15人くらいのツインオッターと言う飛行機で一応客室乗務員も乗っているしかも貨物が多く離陸しているか不安なほどである。ルクラ空港は有名な短滑走路で傾斜を利用し何とかとまり乗客から自然に拍手が出る。ここからパクディンまで3時間ほど、シェルパビレッジ泊。2ベットの個室で快適である、今後泊まるロッジすべてこのような形態でテントを持参するキャラバンスタイルを見かけることはほとんどなかった。

翌日はこのコース最大の村、ナムチェバザールに向けて進む、途中ヤクの隊列や荷物を運ぶポーターに行き会う。ちなみに我々の荷物はKPが手配した2名のポーターが運んでいる、K氏だけは訓練のためディンポチェ(4400m)まで依存しないで行く。

ナムチェは傾斜地にある100戸ほどの集落でお土産屋も多く両替も可能である。ここでは行き帰りホテルナムチェ泊で200ルピーで温水シャワーが使え汗を流せるのは有難い。

翌日は仏教寺院で有名なタンポチェを目指すがじょじょに天候が悪化、翌日の目的地であるディンポチェから上では雪が降っているという情報が入る。寺院に着いた頃は霧が有るが視界は100mほど有り、寺院の内部を見学する、貴重な仏画が描かれているが撮影は禁止。ここではゴンパロッジで泊まるが神戸からのY夫妻やローツエを目指した韓国隊の一部と同宿になる。英語を話せるカメラマンから状況を聞くが登頂を断念して下山してきたこと、日本隊の田辺さん(隊長)とは協力関係にあったことなど情報を得る。夜もふけ1人の隊員がトラになり退場になるハプニングもあった。またHさんが高山病の症状が出たため薬(タイモックス)を飲む、翌日はかなり改善が進んだよ

28日は高地順応を行うディンポチェを目指す、昼食をシャレで取り15時には到着した、ホテルファミリア泊(2泊)

29日はローツエ、アイランドピーク方面のチュクンまで往復して高地順応を行うがiさんの体調が悪い、薬を飲んで様子を見る。チュクンではローツエ日本隊の一部に会い頂上まで1ピッチで断念したという臨場感あふれたお話を聞く、重症を負ったシェルパのヘリ待ちをしていた。

30日はカバタル、アックポイントである、ロフチエを目指すがこの日は4930m自分の最高ポイントである。(アルパイン泊)午前4時頃iさんと私両方頭痛で目が覚め、顔が浮腫んでいる自覚がある、早めに薬を飲んだほうがよいという判断でガイドを起し薬をいただく。おかげで翌朝までで症状がかなり緩和した。

31日はいよいよカバタルをアックする日である、天気が良ければ、1日行程を短縮しここに戻る予定である。さすがに5000mを越えると足取りが重い、しかし天気は快晴、最終経由地のゴラクツブに10:45着、軽く昼食を取る。カバタルは2年前に少し北に移動しコースタイムは3時間でキツイ登りが続く、なんとか13:20頃コルに到着、急な岩山の頂上にタルチョがたなびいている、ここまで来た以上最高点を目指そうと全員登る。13:30登頂、まさに360度の展望、Top Of The World まで10Km、期待通りの展望を満喫した。展望を満喫できたのでロフチエまで下るが途中Y夫妻や行きで一緒だったバンコックからの若者グループに行き会い激励して17:10帰還、ロッジに泊まる。

ここで年が変わり2007年、満足感に慕って下山開始、診療所のあるヘリチエで昼食をとり、バンポチエ、ヒマヤンロッジ

2日はタンポチエ経由でナムチエまで行くが、行きは霧だったタンポチエでは加藤保の慰霊碑の脇から最後のエベレストビューを楽しむ、ホテルナムチエ泊。

3日は最後の歩行日である、このトレッキング路を懐かしみながらルクラに戻る(ファミリーロッジ2泊)

4日朝からルクラ空港、近くのレストランで飛行機の飛来を待つが1日たっても来ず、5日も朝から待ちぼうけ、午後1便が飛んだという情報もあるが結局来ず、ヘリに\$200で乗らないかという誘いがある、結局2万円支払うことで合意し、シリ経由でカトマンズに帰ることが出来た。(ルクラ カトマンズの運賃は90%戻り結局\$110の負担)また最後の宿泊先はガイドの配慮でホテル、Mallaに変更され快適な1夜を過ごすことが出来た。

感想

2年ごしの計画であたがやっとN国の政情が安定し実現した、当初一番天候のよい10-11月を検討していたがiさんが休むことで出来る5+土日×2=9日ではエベレスト街道トレッキングは無理と判断して寒いというリスクを押して年末年始にした。

しかし結果的には以外に気温が高くまた天候にも恵まれ最高の山行を楽しむことが出来た、けっきょく雪の上を歩くことはなかった。途中でメンバーに加わったKさんHさんガイドのKPさん長い行程でも一度も気まずいこともなく、素晴らしいチームワークで目標を達成できました。

Kさんと私は2-3年の内に6000m級のピークハントを希望、HさんはTop Of The World を目指したいなどそれぞれの目標に向け具体的にイメージを描けることができたと思います。

今回の山行でN国の治安状態、格安なロッジの利用方法、ガイドやポーターの雇い方など多くのノウハウを得ることができました。今後N国のトレッキングを目指す方には適切なアドバイスができると思います。

参加者